

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、3事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和2年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育や、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等との連携を強化し、包括的な地域歯科保健医療体制の構築を推進している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなったが、理事長のリーダーシップのもと遠隔授業、臨床実習等に臨機応変に対応し、教育研究への影響を最小限にとどめることができた。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和2年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を一層推進し、地域歯科医療の中核となる大学となることを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・高校における生物の未履修者を中心とした学修支援を実施し、その教育効果をもとに、新入生スタートアップ学修支援プログラムを構築し、実践的歯科医療人としての意識の向上に繋げるなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
 - ・モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、医科歯科連携実習を多く取り入れ、病院だけでなく介護老人保健施設での実習や、救急車同乗など近年の社会的ニーズに対応できるプログラムを導入するなど、実践的な歯科医療人の育成に力を入れている。
 - ・コロナ禍により遠隔授業の実施に向けた履修規程の見直しや評価基準の明確化を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行うことにより、学生の学力の維持に取り組んだ。
 - ・臨床実習前に必要な能力を評価するステューデント・デンティスト認定制度に係る実施体制の整備や、デジタル歯科シミュレーターを活用した臨床技能評価実施に向けた準備を行っている。
 - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和2年度の歯科医師国家試験合格率（対出願者数）が全国29大学中4位と高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率が引き続き100%であった。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・アドミッションポリシーに応じた人材の選抜を行うため、大学院の募集要項を、志望する研究分野を確認できるよう改訂するとともに、面接試験を複数の分野の面接者を配置して多様な視点から行うようにするなど、改善を図っている。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・教員に対しラーニングコモンズを活用した教育方法の周知を行い、座学教育からグループ学習へ転換することにより学生の修学意欲の向上につながる科目を増やすとともに、新たなオンライン教材も導入するなど、教育活動の改善に努めている。
- (4) 意欲のある優秀な人材の確保
 - ・令和2年度から取り入れた3つの学生選抜方法において、それぞれの求める人材に応じた入試方法を工夫するとともに、コロナ禍において、WEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を実施した。さらに、広報誌 Platys を活用して広報活動を充実させるなど、優れた人材の確保に取り組み、令和3年度歯学科入学試験の志願倍率が全国的にも高い倍率となった。
- (5) 学生の学修及び生活支援
 - ・コロナ禍において、教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、充実した学生支援を行うための体制を確保するとともに、アンケート調査や学生自治会との意見交換、新入生の助言班活動を通じて早期に学生の問題を把握するなど、きめ細かな対応を行っている。
- (6) キャリア支援

- ・口腔保健学科において、希望職場への就職活動を支援する体制を充実させるとともに、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、引き続き就職率100%を達成した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数、科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、研究活動の充実に取り組んでいる。
- ・地域医療調査研究センターを立ち上げ、地域の医科歯科協働体制を推進するとともに、寄附講座を開設し、歯周病予防と全身疾患との関連にかかわる研究を展開している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院とオンラインを活用した医科歯科連携を強化するとともに、県下の歯科医師、歯科衛生士を対象としたオンデマンド方式の講習会や歯科医師会との講演会開催など、地域連携に努めている。
- ・口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、北九州市内の歯科開業医からの相談にオンラインで対応するとともに、附属病院内の地域包括歯科医療センター等において、地域中核病院への訪問診療を行うなど地域ニーズを踏まえた連携の充実に取り組んでいる。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を一層充実させるとともに、さらに北九州市の中核病院と協力して、小児期の医療分野における医科との連携も進めている。また、歯科検診受診率向上に向けて地域の経済団体等との連携の充実を図っている。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スマートフォンを活用して学生の健康状態を毎日確認するとともに、遠隔授業や遠隔会議のシステム導入などの対策に取り組んだ。
- ・附属病院の総合診療科の組織再編を行い、臨床教育を充実させるとともに、電子カルテシステムを活用し、包括歯科診療に関連する動画教育素材のアーカイブ化を推進した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、コロナ禍において附属病院収入が減少する中、インテリジェンスツールを用いて診療単価データの分析と結果のフィードバックを行うことにより、診療単価の上昇に繋がった。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・令和元年度に設置した内部質保証委員会を定期的を開催し、理事長のガバナンスのもと、PDCAサイクルが効果的に機能するよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。